

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和3年度の重点＞</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
○ ICT 機器の活用	I C T機器活用の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも使用できるよう各教室で保管している。保管庫は、常に施錠してあり、担任が管理している。</li> <li>・松前学園として、令和3年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に参加。全学年でデジタル教科書を導入。(1, 2年国算、3年以上算理)</li> <li>・漢字、計算、地図の学習アプリを活用している。タブレットを活用した授業実践・習熟練習(ドリルパークなど)を行っている。</li> <li>・実物投影機や AppleTV を活用した教材提示や意見交流を行っている。</li> <li>・Pagesを使ったまとめ資料の作成</li> <li>・タブレットを使用した学習活動や宿題の取組と提出</li> <li>・液晶TV保護パネルを利用した資料への付け足し</li> <li>・タブレットを使った健康調査を提出(一部の学年)</li> <li>・オンライン授業を見据えて授業の中で児童が ZOOM を扱えるようにしている。(オンライン学習を一部の学年で試行済み)</li> <li>・校内に ICT 教育推進担当者を明確化</li> <li>・ICT 機器の活用力を上げるための研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で使いたいとき、すぐに情報収集や編集、発表、交流するツールとしてタブレットを活用することができる。</li> <li>・算数科・数学科において、小中学校共に先の事業に応募し、デジタル教科書を有効活用しながら授業改善に取り組むことができた。</li> <li>・個の習熟に合わせ、問題に挑戦することができる。繰り返し問題に飽きることなく取り組むことができた。また、残ったログから学習状況を把握することができた。</li> <li>・児童が撮影した静止画、動画の視聴を簡単に行うことができた。</li> <li>・ミラーリングにより、一人一人の資料を全体で周知し、話し合いにつなげることができた。</li> <li>・教師の発問に対する解答を瞬時に回収し、進捗状況も把握することができた。宿題の取組状況をリアルタイムで把握でき、つまづきを捉えることができた。</li> <li>・教科書資料をそのまま提示するだけでなく、児童の気付きを書き入れ、周知することができた。</li> <li>・短時間に健康観察を行うことができる。</li> <li>・日常的にタブレットを使用することで、児童も操作に慣れてきた。特に、低学年でも、ZOOM などの操作にも対応できるようになってきた。</li> <li>・ICT 教育推進担当者による情報提供や、環境整備が進み、授業における活用の頻度が上がった。</li> <li>・一人一台端末のもと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の双方を実現するために、教科等を横断してメンター研修を推進することができた。</li> </ul>

<p>○ 異 校 種 間、学校間 との 協 働 性、家庭・地 域との 組 織 的 な 連 携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染リスクが高い見学学習では、見学先と教室をオンラインでつないで実施した。</li> <li>・町内企業と東京の本社で行うオンライン会議に、教室もつなぎ参加させてもらった。</li> <li>・松前町で契約している「ICT 支援員」との連携</li> <li>・松前学園教務部を中心とした、ICT 教育の活性化</li> <li>・家庭学習への活用</li> <li>・学校と全家庭をオンラインでつなぎ、試験的に学活を実施した。</li> </ul>	<p>協働・連携の成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動が制限されていても、見学学習の実施が可能であった。</li> <li>・企業のオンライン会議を体験することで、家庭と学校をつないだオンライン学習へと発展させることができた。</li> <li>・リモートにより ICT 支援員に専門的な質問をしたり、助言を受けたりし、ソフト面・ハード面の課題を徐々に解決することができた。</li> <li>・松前学園内の ICT 機器に堪能な教職員が交流し合うことで、有益な情報を得ることができた</li> <li>・松前町で契約している教材会社のクラウドを利用した学習システムを活用し、家庭学習に利用している(R3から)。また、不登校生徒にも本システムを使って学習させることで、学びの保障につなげることができた。</li> <li>・学校によっては、全家庭との接続環境が確認できた。</li> </ul>
<p>○ 課 題 把 握 と 改 善 点 に つ い て ( 研 究 主 題 に 迫 る 教 頭 の 関 わ り と い う 視 点 も 加 味 し て く だ さ い )</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭とICT担当教員が中心となり、登校できない児童や臨時休校に備え、家庭と学校をつないだオンライ学習を試行した。しかし、低・中学年の児童は、保護者と一緒に操作しないと接続が難しい。各家庭での設定には保護者の協力が不可欠である。</li> <li>・光回線未開通家庭への対応</li> <li>・今後オンライン授業などが実際に必要になった場合において、どのような授業スタイルで行えば、より効果的な授業ができるのか、検討する必要がある。</li> <li>・目的とロードマップの共有化</li> <li>・「組織的な」ICT 機器等の活用という視点で言えば、教職員「個々」の力によるところも否めない。</li> <li>・ICT教育推進担当者の業務を、「持続可能なもの」としていく必要がある。</li> </ul>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への指導は、複数体制で学校で指導する。設定のマニュアルを配布し、保護者の負担を減らす。</li> <li>・町全体でロードマップを作り、全家庭が揃うのを待つのではなく、個別に対応しながら取り組みを進められるようにしていきたい。</li> <li>・校内研修体制の工夫や、ICT支援員との連携方法の工夫が必要である。教員間の格差をより縮めるという視点で、研修を充実させていかななくてはならない。授業の中でICT有効利用についての情報収集を積極的に行い、ICT の有効利用に関しての研修を行う。「いつまでにどの程度まで活用するのか」や「求められる子供像」を学校や町全体で話し合っ決めていきたい。</li> <li>・ICT活用方法の様々な形を知ることで、少しずつ取り入れ、試していこうという雰囲気を作りたい。</li> <li>・渡島西部地区は人事異動の基準年限が短い。ICT教育推進担当者が異動したとしても、複数体制等により、利活用がより進むような体制をつくっていかなくてはならない。先を見た人員配置が必要である。</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（福島町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>&lt;令和3年度の重点&gt;</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台の端末を活用し、調べる活動、まとめる活動を自分に合った方法で取り組むことができている。</li> <li>学習内容を習熟させるために、eライブラリや無料教育ソフトを活用している。</li> <li>複式の授業では、大型テレビを2台用意し、パワーポイントで作成したスライドをそれぞれの学年に板書代わりに提示し、指導の時間を確保している</li> <li>夏季休業中や感染症の影響によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対する自宅等におけるオンライン学習を実施した。</li> </ul> <p><b>【福島商業高校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4 から1人1台端末を本格運用のため、校内研修会を企画(外部講師依頼も検討中)。</li> <li>ICT 機器を活用した授業の公開予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年の時から iPad に慣れ親しんでいるため、高学年になると機器操作による学習の停滞はほとんど見られない。個別最適な学びが実現されている。</li> <li>オンライン機器を繰り返し使用することで、教職員が回線の不調による音声や画面のトラブル等に対応できるようになった。また、町 ICT 支援員が定期で来校するので相談ができる。</li> <li>出席停止期間などでも、児童生徒の学習機会を保障することができた。</li> </ul> <p>・町の支援に全ての教科が必須という教員の意識が高まっている。</p>
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において各小中学校の特別支援級の児童生徒との交流をビデオレターやオンラインで行った。</li> <li>町研等の各種会議もリモート会議を検討中である。</li> </ul> <p><b>【福島商業高校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売実習に向けた小中学校との連携</li> <li>小学校 → 商品選定・販売補助</li> <li>中学校 → POP・のぼり作成</li> <li>タブレットを使用し遠隔での打合せ</li> <li>T-base(有朋高校からの遠隔授業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡小は小規模校のため、他校の児童生徒とつながりをもつことはとてもよい刺激となる。</li> <li>リモート会議、リモート参観等が可能になるように町内全校で環境整備中である。</li> <li>地域のつながりを深めて、高校に対する理解や生徒募集につなげたいところだが、成果には至っていない。学校存続の思いも共有し、惜しめない協力を得られている。</li> <li>学力に応じた指導の実現</li> </ul>
<p>○ 課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p>
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小規模校で意思疎通や情報交換も行いやすいが学校体制としての活用が不透明。</li> <li>タブレットを持ち帰りのための使用方法、ルールについて各家庭への事前説明と協力要請が必要。</li> <li>子ども同士の直接的なかわり方、コミュニケーションの持ち方などを育てるための工夫が必要である。</li> </ul> <p><b>【福島商業高校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本格実施まで数か月あることから、タブレット使用の試みや教材準備が後回しになっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営案にICT活用を位置付け、各学級の活用状況を蓄積し学校としての取組を明確にする。</li> <li>短期間でタブレット端末を回収できる期間も含め、各家庭へのきめ細かい説明・対応を行う。</li> <li>町の担当者や専門的な知識をもつICT支援員に協力を求める必要がある。</li> <li>11月の公開授業週間のテーマを「ICT 機器をツールとした授業研究」とし、全員が授業者として実践する。他教科の授業を参観し、ICT 機器利用の可能性を拡げる。</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（ 知内町 ） 教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>&lt;令和3年度の重点&gt;</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知内町指針策定委員会による町としての指針を策定し、それを受けて本校における活用方針を策定</li> <li>・一人一台端末の持ち帰りの際の保護者への協力呼びかけと同意書提出依頼</li> <li>・デジタル教科書の活用</li> <li>・端末の各教科での活用や総合的な学習の時間における調べ学習やまとめの発表でのプレゼンソフトの活用</li> <li>・ICT支援員を活用した職員研修の実施</li> <li>・町研総会や教頭会議等をリモート(Zoom)で行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知内町は幼小中高一貫教育に力を入れ取り組んできていることから連携を意識したICT機器の活用の取組を推進する。</li> <li>・一人一台端末の利活用は、今後、工夫・改善を加えながらの取組となるが、小中の連携を図りながら推進する。</li> <li>・デジタル教科書の使用により、教材作成の時間短縮や効率化を図るとともに、様々な教育活動において端末を使用することにより、児童生徒の学習に対する意欲喚起が図られている。</li> <li>・ICT支援員による職員研修を実施することで、授業における具体的な機器の活用等について理解を深め、授業改善に向けての取組を推進することができた。</li> <li>・感染予防対策として、集合形式の会議を避け遠隔で実施したことにより、町教委を含め各校とつなげ、リモートでの会議が可能であることを確認した。</li> </ul>
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育の充実</li> <li>小中高英語教育支援事業及び知内町英語教育推進協議会で全校種の英語担当教員中心に、授業公開や実践事例の発表を通して、成果や課題を共有し英語教育に関する指導内容・方法等の改善・充実を図る。</li> <li>・学力向上、学びの充実に向けた取組</li> <li>学びの充実検討委員会において、全国学力・学習状況調査の分析結果等の交流を通じて授業改善への取組や統一性のある学習規律や生活習慣の確立を目指す。</li> <li>・不登校対策の取組</li> <li>不登校生徒への対応において、町教委、町保健師、スクールカウンセラー、合理的配慮協力員等の外部の関係機関と連携し、意見交流や保護者対応の取組を推進する。</li> <li>・一人一台端末の利活用</li> <li>町内小学校間での端末の管理や活用のしかた等についての情報交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町として統一した取り組みができています。中学校から小学校への乗り入れ授業や合同研修会を実施することができた。</li> <li>・各校の分析結果を明らかにし、学力向上に向けた各校の取組や実践について交流することができた。</li> <li>また、共通の学習規律の確立や家庭学習強調週間の取組を推進することができた。</li> <li>・不登校については、担任の負担軽減を進めることと、保護者との連携が重要であると考え、専門性をもつ学校関係機関との連携を深め対応にあたることができた。</li> <li>・それぞれの実態に合わせた端末の活用のしかたはあるものの、3つの小学校の卒業生が一つの中学校に進学することなどを見通して、学校間で大きな差ができないよう、町のICT環境管理指針を基にし、ある程度共通化を図ることができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と協働した教育活動</li> </ul> <p>学校運営協議会等を活用した、各種の学校行事への協力依頼</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に小規模校の学校行事は保護者や地域の役員としての参加が求められ、コミュニティ・スクールとしての協働が必然的になされている。</li> </ul>
<p>○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不測の事態の際に生徒の学びを保障する手立てのひとつとして一人一台端末の活用を進めているところであるが、第一に活動を牽引する人材育成について、計画的に育成していく必要があると考える。また、外部講師等による研修の機会の確保も必要であり、より、効率よく負担感の少ない取組を模索していくことが課題である。</li> <li>・教頭の役割としては、通信環境を含むハード面の整備と、指導方法や教育課程への位置づけについての確認を進めなくてはならない。</li> <li>・教職員のICT利活用に関するスキル、学習に有効なアプリ等の知識の向上や機器活用の指導力・授業構想力の向上に努める</li> </ul>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用法の検証サイクル（外部からの情報等を活用して必要に応じて取り入れる）体制の構築</li> <li>・外部の研修への積極的な参加。</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・指導（ルール）が学校として（町として）統一されたものになっていなければ、混乱が生じる。教頭は実態の把握に努め、必要に応じて全体での確認をする必要がある。</li> <li>・一人一台端末を活用した授業実践の蓄積・交流</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（木古内町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和3年度の重点＞</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木古内町は、小・中学校ともに、令和2年度末にipad(第7世代)とキーボード(ケース一体型)が整備された。また、校内には、高速WIFIネットワークが、各学級には50インチのモニターとAppleTV(メディアストリーミング端末)が整備されている。その他、各学年に充電保管庫(輪番タイマー付き)も配備されている。ソフト面ではAppleの無料標準アプリの他に、主にGSuite for education及びロイロノートを導入している。</li> <li>・ロイロノートを活用し、児童の考えやアイデア等をアプリ上で回収し、大型モニター上で共有し、交流する活動を行っている。</li> <li>・グーグルのクラスルームを活用し、個別最適な学びや協働的な学びの授業改善が行われるようになった。</li> <li>・授業後の感想や振り返りもネットを通じて集約する取り組みも進んできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートはほとんどの学年で活用されており、考えを整理したり、意見の交流に使用したりと大変有効に活用されている。また、クラウド上に無制限にデータ保存できるため、子供たちの活動を動画に撮り、動きのチェックなども有効である。それらの動画を担当が後からチェックできるので評価にも大いに活用できる。</li> <li>・文章等をノートに「書く」活動も大切にしており、書いた紙面をカメラで撮り、エアドロップ機能を使って画像として集め、それらを交流や評価に活用できることも利点である。</li> <li>・子供たちは、新たな取組に食らいつき、意欲をもって授業に参加している。そのため、操作技能の向上がみられる。</li> <li>・短時間で解答ができるため進んで取り組む姿がみられる。</li> </ul>
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町のICT支援員を有効活用すべく、校内研修をオンライン(コロナ禍の為)で行うなどの工夫をしている。主な研修内容は、アプリの紹介や具体的な使用方法等を行っている。</li> <li>・小学校:クレーバーキッズ熊谷氏、中学校:D-School 藤澤氏を支援員として招聘し、校内研修や個人へのアドバイスを願っている。</li> <li>・地域によってはネット環境が整備されていないため町教委にケータイ用モバイルを準備していただいている。今後は、持ち帰りのルールの徹底が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで行う事で負担感なく、気軽に研修活動が出来ることは、メリットである。</li> <li>・具体的なアプリや使用方法を教えていただく事で、すぐに指導に生かすことができた。</li> <li>・日常の活用方法や操作方法等のアドバイザーとして、ロイロノート有効活用における資質・能力の向上が図られている。</li> <li>・学校と家庭をオンラインで繋ぐため、一部の生徒に依頼し実証検証をした結果、繋がるまでの時間やデータのやりとりとスムーズにいかない点があったため、練習が必要である。また、別に家庭用充電ケーブルが必要である。</li> </ul>
<p>○ 課題把握と改善点について(研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師によってはICTが苦手な方もいるので、組織的にと言う事が課題として挙げられる。児童・生徒はもちろんのこと、担当教師も誰もが有効にICT端末を活用する事が必要であるが、ICT活用能力や端末操作に係る技能面での個人差が大きい。</li> <li>・ICT活用をさげ、以前のままの授業にこだわりを持つ教師もいる。ツールとしての活用を定着させる苦手教師の意識改革が急務である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT及びメンター研修的に、校内で得意で先行して取り組んでいる先生を講師として、短時間の研修を繰り返す事で、苦手な先生でも少しずつICT機器に慣れさせていくように促す。教頭は研究部と連携して、このようなミニ研修を意図的に企画するように関与していく事が大切である。</li> <li>・いつのまにか取り残されていたと思わせないう、ICT支援員を有効活用する。</li> </ul>

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和3年度の重点＞ 【視点1】 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
○ ICT 機器の活用	ICT機器活用の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>【タブレット端末の日常的な活用を目指して】</p> <p>○ 授業や朝自習等での利用場面の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登校時に保管庫から各自教室に持っていく、下校時に保管庫に戻すなどの約束の徹底</li> <li>・ デジタル教科書、学習支援ソフトの活用</li> </ul> <p>○ 「Zoom」や「Teames」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍による臨時休業や出席停止、不登校や長期欠席児童生徒への対応として、オンライン学習体制の整備と試行及び実践（学びの保障）</li> <li>・ 行事や児童会集会活動、夏休み学習サポート等の実施</li> </ul> <p>【職員研修の充実を目指して】</p> <p>○ 一人1台端末を授業で有効に活用するための職員研修を計画し、職員のスキル向上を図ること</p> <p>＜内容＞・タブレット端末の運用方法や活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教科書の活用方法</li> <li>・ 「Zoom」や「Teames」の使い方</li> </ul> <p>【組織体制の工夫】</p> <p>○ ICT教育推進のロードマップの策定</p> <p>○ 新しい分掌を立ち上げたり既存の分掌（教務・研究）に位置付けたりするなど、推進担当を明確化し教頭との綿密な連携の下、取組を推進すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の操作スキルの向上。</li> <li>・ タブレットが身近にあることで、授業での活用場面が増えていること。</li> <li>・ 児童一人一人の考えや意見を瞬時に集約、クラスで共有しながら進めるなど、子供たちの考えを交流する場面で、相互に情報の発信・受信する授業展開が可能となったこと。</li> <li>・ 教師、児童共にオンライン授業の実施へ向けてのスキルアップが図られ、効果的な活用の幅が広がったこと。</li> <li>・ 不登校気味の児童や個別の指導・支援が必要な児童も別室（校内適応指導教室や少人数教室）でのZoomによる授業参加が可能となり、一斉・協働的な学びに参加できるようになったこと。（欠席児童の減少・学びの保障）</li> <li>・ 感染症対策として、児童・生徒の安心・安全を守りながら教育を進めることができたこと。</li> <li>・ 授業における具体的な活用例を共有することで、日常の授業での効果的活用が見られたこと。</li> <li>・ 教職員が一斉にICT機器に触れる機会を可能な限り増やす努力をすることで、効果的な活用法の交流の場が生まれ、短時間で多くの情報を共有することができたこと。</li> <li>・ 取組に対する教職員の共通理解と計画的な業務推進に役立っていること。</li> <li>・ 役割分担を明確にすることで一人一人の責任と教職員全体での協働体制をもって取組が進んでいること。</li> </ul>
○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との具体的な協働・連携について	協働・連携の成果について
	<p>【異校種間、学校間との協働性を生かした取組】</p> <p>○ 市のICTに関わるプロジェクトによる各小中学校の組織的な連携を図ること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門チームを組織（情報活用・プログラミング教育、タブレット活用、クラウド活用）し、それぞれの目標を具現化するための取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内小中学校の共同歩調によるICT活用を推進していること。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人型ロボット「Pepper」活用（各校巡回）によるプログラミング学習の推進と指導事例の共有</li> <li>○ 地域中学校区の小中連携組織を核として、小小連携、小中連携によるICTを活用した教育活動の推進</li> <li>○ 上磯高校・北斗高等支援学校・上磯中学校・上磯小学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4校合同での跨線橋壁画ペンキ塗り作業、支援学校とのデュアル実習（本校校舎の窓拭き作業）、上中との合同避難訓練や専科制導入に向けた学級経営・生徒指導の在り方などの研修を予定</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【家庭・地域との組織的な連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者・PTA役員、学校運営協議会員とのメール活用（学校便り・会議案内・学校評価・その他お便り）</li> <li>○ 学校安全メールの効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急時連絡</li> <li>・ アンケート機能の活用</li> </ul> </li> <li>○ 新型コロナウイルス関係で長期間欠席を余儀なくされている家庭とオンラインによる面談の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウドで指導事例を共有することで、指導に係る準備などを効率的に行えること。</li> <li>・ 中1ギャップの解消、学校間連携による話し合いや学び合いの充実などが期待できること。</li> <li>・ 小規模校同士のつながりや、コミュニケーション能力の向上、学びの深化が図られていること。</li> <li>・ 市内でのつながりが深まることで、学習指導や生徒指導上の成果や課題が明らかになり、指導内容の共有や精選を経て、目指す方向性が絞られてきていること。</li> </ul> <p>・ 集合型での会議にかわり、メールによる会議の案内や書面会議を行い、簡単な議決内容はメール内のアンケート機能を活用、学校評価のような大容量な内容は、Google フォームを活用することで、計画通り実施し、連携の継続・校務の効率化を図っていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者、児童共に担任との面談を通して、不安を取り除き、安心してもらうことができていること。</li> </ul>
<p>○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p> <p><b>【タブレット端末の活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使用機会の増加に伴い、タブレット端末の設定や変更等に関わる作業が発生し、多忙化に拍車がかかっていること。</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員によって、ICT活用度に差があり、教頭の関与によって、どう改善していくかということ。</li> </ul> <p><b>【研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業での使い方を学ぶ校内研修になりがちになるということ。</li> </ul> <p><b>【連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市や中学校でそろえるべき部分を確認した上で自校化するにあたり、教頭の横のつながりが重要であること。</li> </ul> <p><b>【家庭との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と家庭とでのオンライン授業実施に係る各家庭でインターネット接続環境がない場合の対応について（特に児童が登校できない状況となった場合の対応）。</li> </ul>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの活用により市内での窓口一本化、交渉や改善事項の取りまとめを進め、可能な限り教育委員会や業者に一任する態勢を整えること。</li> <li>・ 研修担当者を中心に、授業展開においてICT機器の有効な活用法等の研修を進めさせ、全教員が統一した意識で授業改善に取り組めるよう、指導・助言を行うこと。</li> <li>・ ICT機器を活用した授業実践を通して、子供にどのような能力を身に付けさせるか、校内で共通理解の下、進める態勢を整えること。</li> <li>・ 常に教頭間で連絡を取り合い、情報共有を行いながら自校のマネジメントを進めること。</li> <li>・ 教育委員会と連携し環境整備に向けた取組を検討すること。家庭環境を把握し、インターネット接続に頼らずにタブレット端末内の学習ソフトなどの利用で他の児童と遜色ない対応について探ること。</li> </ul>



<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和3年度の重点＞</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p><b>授業における活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット活用した授業の実施 (classroom、google meet、スプレッドシート、タイピング練習、課題の提出は教師のタブレットへ等)</li> <li>・電子黒板、デジタル教科書、実物投影機の活用</li> <li>・学年での一斉図工によるプログラミング授業</li> <li>・遠隔授業の実施</li> </ul> <p><b>授業外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・google form を活用したアンケートの実施(いじめアンケート、研究アンケート、行事アンケート、朝の健康観察等)</li> <li>・在宅学習児に対応したオンライン学習</li> <li>・ICTを効果的に活用するカリキュラムの作成</li> <li>・教員の災害事故休暇による補欠授業体制 (学校共有ドライブを活用した学習プリントの児童との共有、ジャムボードでの学習課題提示による自主学習、meetを活用した朝の会・授業の実施)</li> <li>・chromebook の持ち帰り</li> <li>・学級活動等、日常的な教育活動下での活用</li> <li>・eラーニング登録による臨時休業中の学習の保障</li> <li>・欠席生徒へのタブレットを介した教科連絡等</li> </ul> <p><b>組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹教諭を中心に教育課程編成委員会にて情報共有、取組推進</li> <li>・GIGAサポーターとの連携</li> <li>・ICTプロジェクトチーム</li> <li>・町ICT教育推進委員会との連携</li> </ul> <p><b>研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に学ぶ教材の発掘</li> <li>・安心・安全な chromebook の使用方法確認</li> <li>・デジタル教材を活用した指導方法の検討</li> <li>・プログラミング教育や chromebook の活用に関する研修の複数回実施、スクラッチによる教材作成(算数)の実践研修</li> <li>・教員のICT使用に関する資質向上研修の充実</li> <li>・活用事例の収集と職員への周知</li> <li>・ICT活用をテーマにした校内研究による実践交流</li> </ul>	<p><b>授業における活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の生徒が交流学級の生徒と同じ課題を別の手段で取り組むことができた。</li> <li>・授業中の生徒への課題やアンケート結果、作品例提示の迅速性向上、集計作業の軽減</li> <li>・電子黒板、デジタル教科書使用による音声、映像等の再生の簡素化、子どもの興味関心の向上</li> <li>・遠隔授業をおこなう際、事前の打合せにも Meet を活用し、打合せの時間短縮を図った。</li> </ul> <p><b>授業外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を積み上げながら、持続可能なカリキュラムをマネジメントしていくために、教頭はアンテナ高く実態を把握し、ゴールを明確にした指示をしていく。</li> <li>・在宅の児童生徒へのタブレットを介した学習は、学びの継続を考える上で有効である。</li> <li>・連絡や結果の収集などすぐに活用でき、集団生活の向上に役立てることができた。</li> <li>・デジタル教科書の導入により、多様な考えを引き出す一助となっている。</li> <li>・業務の効率化や経費削減(ペーパーレス等)において効果的である。</li> <li>・接続確認、タブレットの家庭持ち帰りについて体制を整えた。</li> <li>・欠席生徒への細かい教科連絡、友人のノートの写真送信可能</li> </ul> <p><b>組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まずはやってみる」の空気を教頭がつくり、主幹教諭の具体的な指示のもと、取組が進んでいる。</li> <li>・プロジェクトチームを立ち上げ推進の中心となる組織が明確化されたことで、職員のICT活用の意欲が高まり日常的に授業で活用し、成果を互いに共有する雰囲気が醸成された。</li> </ul> <p><b>研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶ教材の発掘が進み、全教員が効果的にICTを活用しようとする土壤ができあがった。</li> <li>・職員のICT機器活用スキル向上が図られた。</li> <li>・七飯町内ICT研修会への職員の積極的な参加により、自己の鏝売れベルに応じた使用方法について具体的に研修することができた。</li> <li>・先進校より講師を招聘し授業における効果的活用場面や方法について協議を重ね、教師の指導力向上につながった。</li> </ul>

<p>○ 異 校 種 間、学校間 との 協 働 性、家庭・地 域との 組 織 的 な 連 携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p> <p><b>町教委</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町教委やGIGAサポーターとの連携は、教頭及び主幹教諭が担当。教員の研修会、町全体で購入するアプリ等について協議を行う。</li> </ul> <p><b>学校間・異校種間</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区で組織されている学習指導委員会の進捗管理を主幹教諭が担当し、ICT活用について「そろえる」取組を進めている。</li> <li>chromebook を使用した町の教頭会の実施。「学びの保障」に関わる効果的な活用について協議。</li> <li>町の小中高英語教育連携協議会による中学校区における英語の授業交流、全体研究授業の実施</li> </ul> <p><b>家庭・地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの家庭への持ち帰り(学校により毎日、週末等)。課題を与え、家庭で取り組ませる。</li> <li>必要な情報をタイムリーに発信。Wi-fi 環境の確認、在宅学習児、保護者と担当が目標を共有した上でオンライン学習に取り組む。</li> <li>中学校区における「小中連携協議会」で学習規律・家庭学習・生活習慣等に関してそろえている。「家庭学習強調週間」を設定し、ゲームやスマホの使用時間制限を含めた家庭学習習慣の確立。</li> <li>安心メール(アンケート機能の活用)</li> <li>学校ホームページの改善</li> </ul>	<p>協働・連携の成果について</p> <p><b>町教委</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町教委やGIGAサポーターとの「学びを止めない」連携が安定し、chromebook の不具合にも迅速に対応できている。</li> <li>町全体でのC4thの使用。</li> <li>在宅学習児が時間割から参加できそうな教科を選択し、google meet を通してオンライン学習を行うことができた。チャット機能を使って意見を送信することで協働的な学びへの足がかりとなった。</li> <li>町のICT推進委員会とともにchromebook の様々な活用について実践交流や情報共有を実現した。</li> </ul> <p><b>学校間・異校種間</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教頭間で具体的なICTの活用方法や研修資料等を随時交流することにより、共通理解を図り、温度差が出ないようにすることができた。</li> </ul> <p><b>家庭・地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持ち帰り、使い方に関する家庭への連携以来と協働体制。</li> <li>中学校区統一した取組により、家庭学習の時間が増え、スマホやゲームの時間が減り、家庭や地域の意識変容につながった。</li> <li>紙媒体の削減、集計作業の軽減</li> <li>安心メールを保護者以外の関係者が登録することにより学校の状況を地域に周知。</li> </ul>
<p>○課題把握 と改善点に ついて(研 究主題に迫 る教頭の関 わりという 視点も加味 してくださ い)</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p> <p><b>教頭としての働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適かつ協働的な学びを展開するため、教頭会で課題を集約し、校長会へ具申することにより町教委、GIGAサポーターを巻き込んで町全体として課題解決を図る必要がある。</li> <li>小中でのICT環境活用状況の統一性、整合性</li> <li>個人情報の管理徹底のためのルール統一</li> <li>小中9年間の情報活用能力(情報モラルや操作等)の系統表・体系表、年間指導計画の整備の必要性</li> <li>小中でのICT環境活用状況の統一性、整合性</li> <li>個人情報の管理徹底のためのルール統一</li> <li>情報モラル教育の充実、ルールの見直し</li> </ul> <p><b>研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた課題、指導、タブレットを介した協働的な学びや課題解決の場面設定</li> <li>ICT活用に消極的な教職員への意識変容</li> <li>校内の交流から校外の教員との交流へ。</li> <li>研修ロードマップの作成</li> <li>デジタルとアナログの適切な使い分け</li> <li>特別支援学級の子どもを交えた協働の必要性</li> <li>ICT活用を通して子供達にどんな力を身につけさせるのか、資質能力の明確化</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びを保障する環境づくりとしてはまだ不十分である。町全体で環境整備する際の予算の問題。</li> <li>Wi-fi 環境がない家庭への対応</li> <li>ICT活用能力のさらなる向上、使用可能な教員の増加</li> <li>個人情報の管理徹底のためのルール統一</li> </ul>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p> <p><b>教頭としての働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この先臨時休業になることを想定し、子供達の学びの保障のため持続可能なオンライン学習の形を構築する。</li> <li>GIGA担当教員の組織への位置付け。</li> <li>ICT機器活用の頻度差による学級差、教科間の差の解消</li> <li>中学校が、校区内全ての小学校とのICT活用状況を見極め、中学校での活用に整合性を持たせることが重要である。教頭が中心となり各校の担当との連携を深める。</li> <li>先進校の授業公開等への職員の派遣</li> <li>町教委ICT委員会、GIGAサポーターとの連携</li> <li>教頭間の連携強化、教育委員会への働きかけと協働、教頭か教職員へのICT活用に関する助言</li> </ul> <p><b>研修・組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用に積極的な教職員がまず様々なことを試しながら活用していく。成果をプロジェクトチームがまとめ、ICTのメリットを全体に周知し、消極的な教職員の意識変革を図る。</li> <li>研究サークル等を活用し、渡島管内の教員がICT授業活用について必要としている情報を自由に交流できる場があると良い。</li> <li>ICT教育を通して子どもに求める資質能力明確化</li> <li>家庭環境による差についての行政の関わり。</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（鹿部町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和3年度の重点＞</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿部町独自でタブレットを一人1台配布している。それを利用し、調べ学習や、家庭学習(スタディサプリ)に取り組みさせている。</li> <li>・学年に応じたプログラミング学習を行っている。</li> <li>・teams を使用し、課題設定や宿題、協働学習、評価等を行っている。</li> <li>・タブレットを使い、取材時に写真を撮ったりしたものをパワーポイントでまとめて発表している。</li> <li>・タブレットによるチャレンジテストの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサプリの内容が教科書に沿っていない教科がある。また、家庭学習の時間の個人差が広がっている。</li> <li>・文字入力に時間がかかり、授業が進まない。タイピング学習を行わせることにした。</li> <li>・評価資料が蓄積され、いつでもゆっくりと評価をすることができる。</li> <li>・写真や動画を使って、わかりやすくまとめ、発表することができるようになった。</li> <li>・テスト実施後、児童は自身の解答終了送信後即座に自分の結果を確認することができ、解説でフィードバックできるところが良かった。</li> </ul>
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT やスマホの所持率や使用状況について、異校種間で情報共有を行っている。</li> <li>・情報モラル教室は保護者にも案内を出し、参加してもらっている。</li> <li>・視力についても、異校種間で情報の交流を行っている。</li> <li>・安心メールやホームページ等で、保護者・地域に情報発信を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の課題や、成長段階による違い等を共有できた。</li> <li>・学校と家庭とで、モラル指導を共同で行う必要性が共有できた。</li> <li>・幼稚園児から視力の低下が顕著になっていることが分かった。</li> <li>・必要な情報がタイムラグなく一斉に伝えることができる。</li> </ul>
<p>○ 課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急速に ICT 化が進んだため、パスワードの設定や、きまりやモラルについての整備が十分とはいえない。</li> <li>・長期欠席の生徒のため、Zoom 等で、在宅学習を行ったが、家庭の Wi-Fi 環境によって、音声が届かなかったり、回線が繋がらなったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導部や ICT 推進担当会議を適宜行い、即時対応できるような体制を作っておく。</li> <li>・ICT の専門家に対応してもらえるように、教育委員会などと連携していく。</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」 （ 森 町 ） 教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>&lt;令和3年度の重点&gt;</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ICT機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p>1 各教科等における効果的な活用に資するカリキュラム・マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を位置付けた教育課程の編成</li> <li>・日常授業及び家庭での活用による補充的・発展的学習の充実</li> </ul> <p>2 ICTを活用した学校安全の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休校等時の連絡体制の拡充及び学習の保障</li> </ul>	<p>○ 町内各学校で、一人一台端末機器を含め、ICT機器の日常的な使用が推進されたことで、ICT機器の活用を位置付けた教育課程を編成することができた。</p> <p>○ 長期休業中のみならずタブレット端末の持ち帰りを行ったことで、連絡体制の確保はもとより、日常の家庭学習の充実につながった。</p>
<p>○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<p>1 森町教対協の取組を中心とした校種間連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Microsoft Teamsによる町内教頭間のコミュニケーションの活性化</li> <li>・コミュニケーションアプリを活用したWeb会議の実施による会議等の短縮化・軽減化</li> </ul> <p>2 保護者あて文書及びアンケート等の電子化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達の高速化及び確実性の向上</li> <li>・集約業務等の軽減化による働き方改革の推進</li> </ul>	<p>○ 森町教対協の担当部会が単年度での持ち回りとなるため、適宜、校種間の連携が必要となった。その際にICT機器を活用することで即時的な対応が可能となり、必要な時に必要なだけつながることができ、業務等の軽減化を図ることができた。</p> <p>○ 文書やアンケートの電子化については、町内での統一されたフォーマット等がないため、各校での取組にゆだねられていることから、使用するフォーマットやアプリの統一について保護者の理解と教職員全体への周知が課題である。</p>
<p>○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p>
	<p>1 システムの維持（管理、更新、引継等）体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容面と制度面における体制づくり</li> <li>・異校種間の連携による円滑な接続</li> <li>・セキュリティーの脆弱性の解消</li> </ul> <p>2 ICTを活用した授業づくりに係る研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関の研修機会の積極的な活用</li> <li>・取組成果の発信及び共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な方法（マニュアル等）の作成</li> <li>・教育委員会、行政部局（ICT担当）との連携、校内担当者の育成と校内組織の確立</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森町教対協の組織を活用したより実践的な研修活動の充実</li> <li>・ICT機器の効果的な活用に資する内容の各校校内研修への位置付け、実践及び交流</li> </ul>

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」 （八雲町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>&lt;令和3年度の重点&gt;</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や学活・教科で生徒のまとめや発表物の作成に活用</li> <li>・調べ学習、プログラミング学習等で使用</li> <li>・小学校中学年では、運動会のダンス動画をクラスルームで視聴できるようにして家庭練習できるようにしたり、社会の調べ学習を課題として出す。</li> <li>・導入されたeライブラリーを授業や家庭学習で活用</li> <li>・GIGA 活漢字ドリル、eライブラリーなどのソフトを使用した学習</li> <li>・出席停止を含む長欠児童への遠隔授業の実施</li> <li>・フォームを活用した各種調査の実施</li> <li>・毎日の職員への連絡事項の共有</li> <li>・町のICT活用推進組織と連携し1台の学習用端末の活用実践例を日常的に交流</li> <li>・情報委員会及びICT担当者を中心に児童端末の取り扱い等を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でICT機器を活用することが通常が取組になりつつある。</li> <li>・宿研で活用し校外でも自由に使う素地ができた。</li> <li>・夏休みの宿題も電子化で取り組みやすくなった。</li> <li>・紙媒体で健康観察を行っていた時より、集計作業が軽減された。</li> <li>・指導の個別化・学習の個別化を図ることができた。</li> <li>・わたり・ずらしの必要な複式学級の指導に使うツールとして特に有効である。</li> <li>・個に応じたドリル学習を進めることができた。</li> <li>・欠席した児童へも学習内容を伝えたり、双方向でのやりとりができた。</li> </ul>
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の取組で学習常規を見直し、9年間を見通した指導の基礎を作った。</li> <li>・地域的心声を学校に取り入れ、学校の要望を地域にお願いする等の活動を行った。</li> <li>・以前のように中高、幼中で実際に生徒が協働しておこなう場面がつかれなくなっている。</li> <li>・小中一貫教育の取組として交流学习を計画</li> <li>・9月にオンラインを使用した交流学习を行い、継続して取り組む予定である。</li> <li>・CS 校区内合同授業の実施（ICT を用いた遠隔学習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の危険箇所点検等の共通行動ができた。</li> <li>・コロナ禍で、どうしても学校から足が遠のため、児童・生徒との交流が薄れてきているという感想をいただいた。</li> <li>・普段意見を交流できない児童が協働的な学びを実現する場として、他の小学校との遠隔学習は有効である。</li> <li>・担任が家庭での学習が苦手な児童に対して、学級と家庭を meet でつなぎ、サポートすることで学習の定着が図られたと同時に学習習慣も身に付いた。</li> <li>・広報等と協力して学校から情報発信する方策をとる必要がある。</li> </ul>

<p>○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の問題（ゲームに使用する）等がある。</li> <li>・学校閉鎖等になった場合の、オンデマンドでの学習保障の重要性（教科、単元、特別活動など）。</li> <li>・家庭での使い方（学習用端末として、学校と家庭との連絡ツールとして）</li> <li>・ICT活用に向けた物的環境は整いつつある。また、何をいつまでどのように推進するのか明確な目標を持たせるよう努めている。</li> <li>・情報委員会中心に児童端末の家庭での活用について協議してきた。</li> <li>・低学年の持ち帰りが場合によってはランドセルが重いなどが見られた。</li> </ul>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、研究から研修にシフトを移し、必要な研修を計画的に進める必要がある。</li> <li>・実技を伴った校内研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>→外部講師を招聘しての研修</li> <li>→先進校からの学び</li> <li>→ICT推進委員による先進校の視察</li> </ul> </li> <li>・効果的な活用方法や指導実践の調査、収集、研究。</li> <li>・活用能力の差が大きい現状を埋めるための実践的な講習等。</li> <li>・課題解決のため担当となる教員の業務が一方的に増えてしまわないよう、課題の焦点化と重点化を一層進める必要がある。</li> <li>・端末操作やクラスルームやスライドショー等の取り扱いのカリキュラムを設定した。</li> <li>・教科等横断的な視点からもカリキュラム・マネジメントを図る</li> <li>・ICT活用を単元間のつながりにとらえたり、どの単元で活用したのかの履歴を残し、次年度にいかしたりなど、数年間の見通しを持ち、組織的な実践に取り組んでいきたい。</li> </ul>
---	---	--

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（長万部町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>&lt;令和3年度の重点&gt;</p> <p><b>【視点1】</b> 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
○ ICT 機器の活用	ICT機器活用の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>1. 組織の整備</p> <p>(1) 情報管理委員会の増員(2名→4名)</p> <p>(2) 業務の明確化</p> <p>①一人一端末の推進 ②一斉メールの管理</p> <p>③ホームページの管理運営</p> <p>2. 職員研修</p> <p>(1) 校内研修の実施</p> <p>(2) 町内研修(町教委主催)</p> <p>小中学校が一堂に会しての研修</p> <p>(3) GIGAスクールサポーター導入(月1回の来校・メールでの相談)(町教委負担)</p> <p>1月に町内研修第2回を予定</p> <p>3. 端末の本格導入(6月～)</p> <p>(1) ルールの設定～事前指導</p> <p>(2) まずは触れることから。毎朝の使用</p> <p>①朝の体温・健康状態の入力</p> <p>②スクールバスの利用確認の入力</p> <p>(3) 校内オンラインの活用</p> <p>特別支援生徒の別室での授業参加</p> <p>(4) 教科によるデジタル教科書の活用(英語科、保健体育科、数学科、社会科)</p> <p>(5) 行事の配信</p> <p>校内行事(儀式、総合的な学習の時間の成果発表会等)の保護者へのライブ配信</p> <p>(6) その他各種活用</p> <p>①生徒・保護者アンケートでの活用</p> <p>②保護者面談日程調整での活用</p> <p>③特別支援学級による試験的な持ち帰り実施</p> <p>④校外学習による試験的なタブレット活用</p>	<p>○生徒・教師共に活用の定着</p> <p>毎日使う、使わせることから始めたことで抵抗なくステップアップできたこと。</p> <p>○教職員の主体的な活用推進</p> <p>「こうできたら便利になる」というイメージを遊び感覚で追求していく体制が負担感を低減させたこと。</p> <p>○町教委との連携</p> <p>「こんなことをしている、こんなことがしたい」ということを日常的に連絡・相談することで必要な器機の購入等がスピーディに実現。</p> <p>○教頭会における情報交流</p> <p>小中の職員間の交流をコーディネートすることで推進を加速化した。</p>
○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との具体的な協働・連携について	協働・連携の成果について
	<p>1. 町内小学校との連携</p> <p>(1) 情報交流</p> <p>(2) 特別支援学級における合同オンライン交流会</p> <p>(3) 町教委主催合同研修会の実施</p> <p>2. 家庭との連携</p> <p>(1) 家庭用端末からの健康観察シート入力(休日)</p> <p>(2) 各種アンケート入力</p> <p>3. 町教委との連携</p> <p>(1) 日常的な情報交流</p> <p>(2) 使用機材等の購入</p>	<p>○小中それぞれの活用実績を相互に取り入れられたこと。</p> <p>小学校は「配信」、中学校は「日常生活での活用」などそれぞれの実践の相互活用が「始まっている。</p> <p>○保護者の端末入力により教職員の作業の合理化</p> <p>○町教委との連携によるスピーディな環境整備</p>

○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	視点1に係る具体的な課題について	視点1に係る具体的な改善点について
	1. 校内の組織的な運営 2. 家庭への端末の持ち帰り 3. 学びの保障のための授業を核としたICT活用	1. 教職員の意識改革（「使い方」より「活かし方」） 「教職員が使えなければ指導できない」ではなく、「生徒が主体的に使えるように促していく」へ ☆合同研修会の継続 ○研修担当者への指導・助言 2. 町教委との環境整備協働 家庭での接続環境整備、端末破損への対応、ルール徹底等生徒指導的な環境整備 ☆試験的な運用による検証 ○教育委員会への発信・連携 3. いつ休校となってもオンライン授業が可能な体制づくり ☆GIGA スクールサポーターの活用による技術的な準備 ☆校内研修体制の確立～従来の研修体制を根本から変更する大胆な発想（単年度型研修計画等） ○外部活用のコーディネート